

交通 ①

動くバス停？

アプリで

バスの待ち時間検索なんてできなかっただし
MRTの路線もこんなになかった。

便利になりまくりの交通手段。



台北の市内バス ＝公車

方向が合っているのか、今どこを走っているのかもわからず、行きと帰りが同じルートを走らないところもあり、時刻表がなく延々と待つこともよくあり。そのうえ、バス停が動く！ 夜が明けると、台北の南京東路、信義路はバス停が移動していることが……。客の気持ちを無視して、地下鉄工事の都合で平気でズリズリ動いていた。



これに慣れてしまえば、最近のバス事情は大きく向上していて、到着時間が電光掲示板で表示されているバス停もあれば、携帯のアプリでも運行状況の検索ができる。車体もきれいになって、車内にも次のバス停を表示している。昔は、今どこで次がどこかなんて知らせてくれなかったので、土地勘がないと怖くて乗れやしなかったけど、とても便利になった。

さらに英語と日本語を丸暗記でアナウンスしだすバス会社まで出てきたほど。これは「首都」^{ショウドウ}というバス会社で、各路線、たぶん1ルート1回。喋りだしポイントは不明で、発音はあるで無視のナニ語にも聞こえない言葉を一気に話す。あまりにも突然だし、へたくそで聞き流されることもあるので、何のためにやっているのかわからないが、偶然聞けると企業努力を感じて嬉しい。図書館システムを積んだ小さな本棚があるバスが走ったりもしていたし(すべくなくなった)、同じ行き先のバスが列をなして3、4台ジャンジャ力走ってくることもあるって、もったいない。



MRT ＝捷運

風貌は日本の地下鉄に似ていながら、たまに地上にも出る。捷運は、直訳すると「新交通システム」というそう。高雄も2008年から開通し、台北もどんどん路線が増えていて、近々桃園国際空港と市内が繋がる予定。駅構内、車内がやたらと清潔なのは、改札の1歩手前に黄色の線が引



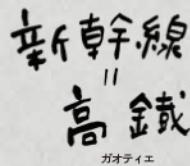


いてあって、そこから先を飲食禁止としているから。水もガムも口に物を入れたらダメで、バレたら高額の罰金。どこでも食べて、平気でこぼす台湾人だから、これくらい脅さないとダメなのだ。

注1
カードの中国語は、
タイ語みたいに
“カー”と言う



ヨーヨーカー
プリペイドカード、台湾版Suicaの悠遊卡(注1)は台北市内のバスでも使える。台北市内各所の無人レンタサイクル、YouBikeもこれでOK。機械が設置してあれば、台鐵(鉄道)の支払いもコンビニ、スタバ、スーパー、タクシー、台北市内の駐車場でも可。



台北—高雄に2007年から開通した。新幹線は高鐵といって、高速鐵道の略。「鐵」は繁体字で、「鉄」を示す。車内は、新しくてきれいでかっこいい。車体の外観が黄ばんじやってるのは、開通時に新幹線を洗う機械をいじくって車体が機械に入らなくなつたから。だいぶ長い間手洗いしていたそうだ。

乗車券は日本より安い。チケットの予約購入は、台湾の身分証明があればネットで予約でき、少額の手数料でコン

ビニ受け取り可。コンビニ支払いの切符は感熱紙のレシートで、改札では印字されたQRコードをかざす。駅で買う切符はオレンジと黒で新幹線のテーマカラーと一緒につていて、改札に通すとき裏を上にして入れるので、一瞬戸惑う。シャンチャー乗車(中国語では「上車」と下車の駅が変わつていなければ、同日の時間変更は無料。

ここまでとてても便利。でも、駅の券売機。おつりが全部コインで出てくる。どうしちゃったんだろうか。支払いにお札は使って飲み込むくせに、お札のおつりが出せない。500元なら50元10枚を堂々と出してくれる。800元分は、16枚。950元分のおつりなんて間違つてももらわないようにしないと、財布がハンバーグみたいになっちゃう。でかい図体した機械で、なんともトロ臭い。ちなみに、MRTも似たような図体で、高額のお札が使えないのがある。近所に同じ大きさの両替機が設置されているので、そこでわざわざ両替だけして券売機に戻つて購入。大きい体で、中に何が入つてるんだ? 開けて見てみたい。開けたら人が入つたりして。



切符の販売機は、中に算数の不得意な小学生が入つているのかも。大きいし、微妙な時間をかけておつりをたどたどしく出す



新幹線駅は、台北、高雄以外は、鉄道駅と離れているので、街中まで遠い。そのへんは肝に銘じて。

鉄道 台鐵

タイティエ

台湾鐵道を縮めて台鐵と呼ばれる鉄道。車体、駅弁、車窓など、地方の場合は駅舎を含め、もうもう昭和っぽい。スピードもゆっくりで、旅情を楽しみたい人にオススメ。車窓、車内のローカルな感じが楽しく、車両はレトロなだけに、席がゆったりしているので、駅弁を食べることをお勧めする。座席にテーブルはないけど。

おべんとおべんと
ワイワイ

駅弁は肉とおかずをご飯の上に乗っけて、詰められるだけぎゅうっと詰めた、茶色の食いしん坊の作ったお弁当。60元(240円)前後と安めで、メニューに特徴はなく、みんな排骨便當(カツ煮弁当)か鶏か、あって素食便當(ベジタリアン弁当)。近所で作った出来たてを売るので、どこで買っても薄ら温かいのが嬉しい。おすすめは、米どころ、池上駅の駅売り。台湾中に池上便當のまがい物があるほど有名で、「ベントーン」と台湾語化した日本語がホームに響く。短い停車時間に売り買いするので、弁当

のために走ったりする姿に興奮する。



弁当の基本は、仕切りで分けたりせず、ご飯の上にオカズがどん！ オカズの味がしみたご飯がたまらない。聞くところによると、駅弁文化は日本と日本の影響を受けた台湾のみ。当時のみんなの憧れの旅は、台鐵で駅弁を食べること

駅のホームで電車の停車中を狙って駅弁を売る駅売り。今は、台北から近い福隆と米どころ池上ののみとなっている

台北駅

台鐵だけのものだったこの駅。
MRT = 捷運が2路線、高鐵が加わって、長距離バスの客運も京站ともつながって、台鐵、高鐵、捷運、客運と巨大になった。

2階にはフードコートが広がり、1階も東京駅のエキナカみたいに、お土産、食べ物屋、鉄道グッズを売っている。発展とともに改裝を繰り返し、地下が蟻の巣のように何層にもなっているので、私のような方向音痴は何年経っても迷う。標識も最短ルートを表示しているわけではなく、たどり着けるルートを左へ右へと、よかれと思ってあっちこっちにたっぷり掲げているので余計迷う。現在進行形で変化しているので、ナメると怖い。



日本統治時代に作られた台湾鐵道は、今も当時の駅舎が残る。写真は高雄。この隣に現在の大きな高雄駅がある

南陽線といわれる、台湾の中部にニヨリと生えたような形で延びる、集集線。ダムを作るための物資運搬用に作られた線で、30キロ弱の道のりは、台湾レトロを楽しむ人で賑わう。写真は、集集駅。日本統治時代に作られた駅舎を復元したもの

